

# ネピアアテンダー ケア通信 Vol.27

発行元: 王子ネピア株式会社  
ケアサポート事業本部  
東京都中央区銀座5-12-8  
王子ホールディングス 1号館  
編集・制作: 株式会社ジェイ・キャスト  
発行人: 取締役 ケアサポート事業本部長 山下千晶  
発行日: 令和元年6月28日



## 介護業界の現在

2年前、新人介護士と認知症の高齢者の交流を描いた映画「ケアニン」が話題になり、自主上映会も1000回を超える。今年4月、そのスピノフ企画「ピア まちをつなぐもの」が公開。テーマは在宅医療・介護。企画・原作・プロデュースの山国秀幸さんに、製作の中で考えたことを聞いた。

### 熱い在宅介護のプロたち 多職種が力を合わせる姿を映画化



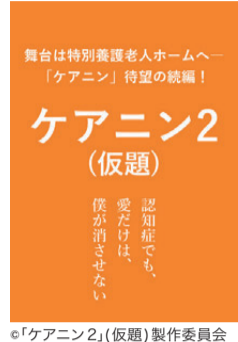
株式会社ワンダーラボラトリー代表取締役  
山国 秀幸さん  
(やまくに・ひでゆき)

1967年生まれ。大学卒業後、リクルートを経て、アミューズメント機器メーカーでCS放送局の経営やメディア関連新規事業の開発、映画会社で映画プロデュースなどをした後、2007年より現職。

主人公は、大病院で先端医療を研究していた若手医師・雅人。地域医療に取り組み父親が倒れたため、医業を継ぐことになった。父が訪問診療していた患者を診るが、トランプ続き。胃腸を平然と勧め、ケアマネジャーに「デリカシーがない」と批判されることも。

ある日、対応を間違えた患者が救急車で運ばれ、それを機に、雅人は反省。父の座右の銘「病気を診ずして病人を診よ」という言葉に触れ、病室だけでなく患者の生活や人生全般をみて診察できる医師をめざし、在宅医療に取り組む。

在宅医療をテーマにしたのは、ある医師から、「自宅で最期を迎えたい人が多いのに、病院で亡くなる人のほうが多い」という話を聞いたからだ。映画作りのために取材したのは、本欄でも取



「ケアニン2」(仮題) 製作委員会  
映画の詳細はHPへ  
www.peer-movie.com  
www.care-movie.com/2/



©2019「ピア」製作委員会



©2019「ピア」製作委員会

#### 最期を生きる手伝いをする

映画では、がんの家族を在宅で看取るシーンが丁寧に描かれている。生きていくうちに、患者にさせたいと、多職種が力を合わせる。「終末期医療における医師の役割とは何かを、雅人は突きつけられるのですが、病気を治すことだけではない。最期を生きての手伝いをする」とい

う答えに行きつきます。山国さんは、脚本を仕上げた前に、内容に間違いなどがなくどうか確認するため、物語の筋立

り上げた千葉県柏市の在宅医療・介護連携だ。「医師や介護関係の多職種の人が集まって、さまざまなケースを想定しながら、どう連携するかを話し合ったりする研修会も見せていただきました。そのあとに飲み会があるのですが、店でも過去の事例を振り返って侃々諤々意見をぶつけて合っている、皆熱いんです。強いプロ意識を感じて、カッコいいと思いました」

てを、医師や介護関係者に読んでもらったときの反応が忘れられない。「現実的ではない」と言う方がいらっしやいました。実際にやっていると言っても驚かれる。他の自治体も医療介護連携を進めているので、研修などをみつけて多職種とつながってほしいです」

以前は柏でも、医師と介護職の間には壁があったが、「二人の力は知れている。力を合わせなければ」という医師の言葉で歩み寄りがなされた。医師も介護関係の専門家も家族も、医療・介護の前では平等だ、仲間だ。それが映画のタイトル「ピア」の概念である。

### 注目のトピックス

- ドイツでも介護人材不足、アジアで募集、日本と競合**  
日本より早く介護保険を導入したドイツでも介護人材不足に直面。EU域内でも確保も難しくなり、アジアの人材獲得に乗り出している。ドイツと日本の現状と課題は?  
2019/6/9朝日新聞
- 赤ちゃんがボランティア? 佐賀の介護施設**  
佐賀県唐津市の「看護小規模多機能型居宅介護むく」では、赤ちゃん(0~3歳児)ボランティア制度を導入。母親と赤ちゃんに日中4時間(ランチタイムを含む)、施設で過ごしてもらい、利用者やスタッフの笑顔を引き出している。  
2019/6/10日テレNews

### 脳のアンチエイジング

思考を柔軟に! よく見て!

**問題** コックをひねりました。一番最初に水が満たされるカップは何色でしょうか。

答えは裏面にあります。

### 全員で働きやすい環境を作る

職場のお話、聞かせてください。

手稲リハビリテーションセンター/風車の家(北海道札幌市) グループホーム 風車の家管理者 奥田洋さん  
サービス課長 大谷貴浩さん/同介護主任 古屋芽生さん

地域住民の一人として暮らせる施設の運営をめざす北海道札幌市の社会福祉法人宏友会。勤続20年目を迎えたという三人にお話を伺いました。長く働き続ける秘訣を聞くと、グループホーム管理者の奥田さんは「同僚、上司に助けられました。同時に、入居者さんやご家族の皆さんからの言葉が励みになっていきます。利用者さんに「ここがよかった」と言ってもらえるのは、何にも代えがたいご褒美をいただいた気持ちになります」。

職場の人間関係が本当にいいんです。仕事をするうえで、いろんな悩みや辛いことも多々あります。でも、相談し合える仲間がいること。施設長もここで介護職員として働いてきた方なので、私たちの気持ちを理解してもらえることなどから、組織の上までの風通しがよい職場だと常々感じています」と語るのは、サービス課長の大谷さん。

介護主任の古屋さんは「私も同じ気持ちです。それと、何かやりたいって言ったときにダメだよと言われたことがありません」。

「毎年、ES(従業員満足度)調査を行っており、待遇面からちょっとしたこ

とまで、きちんとすく上げて改善していることが目に見えるようになっていきます(奥田さん) 昨年からは職員と一緒に職場改善の取り組みも始めました。働きにくい点、やりにくいところを職員の声を聞き、優先順位の高いところから改めると、「要望を言っていないだ」とみんなの意識が変わっていったそうです。「改善のお陰で、もう続けられないかもと言っていた人も大丈夫になり、それはとてもうれしかったですね」と、奥田さん。

働きやすさが職員の笑顔につながり、いい循環が生まれています。

初夏の北海道のさわやかさがあふれている皆さん

# 喜びも苦勞も地域とともに



社会福祉法人宏友会  
常務理事・法人本部長  
**古舘 美津子氏**

北海道札幌市西区で、45年前に社会福祉法人を設立し、老人福祉を通じて地域の発展に貢献してきた宏友会。常務理事・法人本部長の古舘美津子氏を、王子ネピア社長の用名浩之が訪ねました。

**用名** 今朝の北海道新聞で、宏友会さんの特養「西野ケアセンター」の藤棚の記事を拝見しました。先ほど立ち寄ったのですが、広くて美しい藤棚の下をたくさんの方たちが楽しそうに歩かれています。

**古舘** 明日の午後は藤棚の下にテールとイスを置いて「パープル・カフェ」を開きます。法人本部のあるこの「手稲リハビリテーションセンター」(特養)にも、藤棚が3カ所あります。

**用名** ここには、大きな噴水や池、丘の上には風車があり、滝まで流れていてビックリしました。こんな環境で暮らせるご入居者さんは幸せです。

**古舘** オリンピック会場の貴賓室に床暖房が初めて設置されたのを見て、寒冷地の老人福祉施設に必要なと思ったのです。庭の花や緑、噴水や滝の水音が住まいとしての特養の憩いになると、祖父と父は考えていました。

**用名** ここで安心して快適に、心豊かに暮らしてほしいと願っていらしたことを強く感じます。

**古舘** うれしいお言葉です。弟に手伝ってほしいと頼まれて、22年前に法人に入りましたが、地域の方たちの力をお借りしながら何とかやってきました。法人としては安定経営を基本に、そこにながらサービスの充実、職員の働く環境の整備などに努めています。特養グループホーム、ケアハウスと施設も増えましたが、施設ごとに目標を定め、取り組んでいます。

**用名** HPPを拝見すると、施設ごとの目標に独自性が感じられます。ご苦労はたくさんあると思いますが、感動や喜びも多いのではないのでしょうか。

**古舘** 小学4年生のときに体験学習でうちの施設に来た子が福祉の専門学校を出て採用面接にきてくれたときは感動しました。この施設長も20年前に実習生として来て、そのまま入社してくれた人で、今では大黒柱です。



王子ネピア株式会社  
代表取締役社長  
**用名 浩之**

**老人福祉施設で初の床暖房を設置**

**用名** 職員研修も保育士や障害者福祉司と一緒にやられていますね。

**古舘** 一緒に研修すること、障がい者スポーツを体験することで、互いに刺激を受け合います、学び合うことができます。

**用名** 素晴らしい試みですね。ネピアも「共創介護」の精神で、現場の皆さまと一緒に、よい介護環境づくりに貢献したいと考えています。

**古舘** 心強いですが、地域の皆さまに支えられて今地域に根差し、しっかりとつながっていきたくいです。

**古舘** ありがとうございます。ここは果樹園を営んでいた祖父の代からの土地です。標高300メートルで、湧き水が豊富でおいしいお米ができる土地だと聞いています。

**用名** 噴水や滝も湧き水を利用して利用されているのです。高台だから札幌の街を見渡せ、眺望がいい。夜景もきれいでしょ。

**古舘** ありがとうございます。地域の方たちの力をお借りしながら何とかやってきました。法人としては安定経営を基本に、そこにながらサービスの充実、職員の働く環境の整備などに努めています。特養グループホーム、ケアハウスと施設も増えましたが、施設ごとに目標を定め、取り組んでいます。

**用名** 素晴らしい試みですね。ネピアも「共創介護」の精神で、現場の皆さまと一緒に、よい介護環境づくりに貢献したいと考えています。

**古舘** 心強いですが、地域の皆さまに支えられて今地域に根差し、しっかりとつながっていきたくいです。

**用名** HPPを拝見すると、施設ごとの目標に独自性が感じられます。ご苦労はたくさんあると思いますが、感動や喜びも多いのではないのでしょうか。

**古舘** 小学4年生のときに体験学習でうちの施設に来た子が福祉の専門学校を出て採用面接にきてくれたときは感動しました。この施設長も20年前に実習生として来て、そのまま入社してくれた人で、今では大黒柱です。



設置当初は札幌駅からも見えたという宏友会のシンボル、風車をバックに

## テnderサポート便り 共創介護の現場から vol.18

### 自分も利用したいと思えるケアの視点から 排泄も個別ケアで対応

王子ネピア仙台支店 黒須由貴奈

社会福祉法人福寿会が運営する特別養護老人ホーム福寿乃郷(山形県山形市)は、2013年に開所、100床全室個室のユニット型施設です。

福寿乃郷が大切にしているのは、利用者様一人ひとりが“自分らしく”生活できるようなケアを行うことです。同施設内には“介護力向上委員会”があり、介護技術の向上・接遇面の向上を目的として日々活動しています。

“自分も利用したいと思えるケアをする”という視点を忘れずに取り組んでいきたいということで、排泄ケアにおいても個別ケアを大事にしています。

利用者様一人ひとりに合わせたアイテムの選択や当て方、おむつの交換時間の検討をしていくために、ネピアでは定期的な紙おむつの勉強会や、おむつ交換の立ち会いを行っています。

#### ■福寿会法人本部統括介護課長の渡辺千春様からのメッセージ

困ったときに黒須さんへ連絡して立ち会いをお願いし一緒に悩み、アドバイスをもらう。私達施設にとって心強い味方です。

新しい情報を知り、勉強している黒須さんに助けをもらい、職員も「こんな当て方があった」と気づき、日々学んでいます。嬉しいことにパッドの当て方を私に教えてくれる職員もいます。

先日、サテライトの施設にも立ち会いをしてもらいました。これからも法人全体で入居者の方が安心して生活できるよう一緒に取り組んでいきたいです。



ユニットリーダー会議の様子



明るくチームワーク抜群のスタッフの皆様

### 肩甲骨を引き寄せて背中を刺激!

監修:長野 茂(フィットネス研究所代表)



「ながらストレッチ」は、健康づくりに役立つストレッチ法を長年研究してきた長野さんが考案しました。ちょっとした時間で実践できるもので、くり返す続けられます。心と体をシャキッと目覚めさせ、やる気モードをオンさせましょう!

①椅子に浅く腰かけて背筋を伸ばし、両手のひらをうしろで合わせて指を組み、腕を後方へ伸ばします。肩甲骨を寄せるように胸を張り、約10秒キープします。

②①の姿勢のまま、ゆっくりと上げ、上げきったところで4秒静止し、ゆっくり下げます。これを3回繰り返します。腕を上げるときは視線を斜め上にして、上体が前かがみにならないように注意します。呼吸は止めずにゆっくりと。1日3回を目安に行います。立った姿勢でもOKです。

### 情報満載の「ネピアテnder共創介護」をご覧ください!

王子ネピアでは、「共創介護」の考えのもと、介護の現場と一体となって、新たな解決策や商品・サービスを生みだしています。ネピアのサイト内の「共創介護」コーナーでは、カウンセラー活動、商品開発、品質マネジメントの現場で働くスタッフの声を集めました。排泄ケアの課題解決に取り組むカウンセラーの声を商品開発に活かし、厳しい品質管理を行っている、ネピアの気持ちをお届けします。ぜひ、ご覧ください。

<https://www.nepia.co.jp/tender/kyosokaigo.html>

【答え】青 水が流れていくパイプの様子をよく見て考えましょう。